

～ウクライナから使者3人のメッセージ～



「子どものすさまじい被害と 救済—ナロジチ」

★ナロジチ中央病院
マリア・パシュック院長



チェルノブイリ原発事故で一番ひどい汚染地区
ウクライナのナロジチ。
全員病気だった34人の子どもの食品汚染を、
日本プロジェクトで95%以上減らすと、
内部被曝の値が下がり、病気が良くなりました。
世界初のデータと驚愕の事実を、ナロジチ中央病院
マリア・パシュック院長に話していただきます。

★通訳：イーゴリ・オコレロフ
★歓迎あいさつ
井戸川克隆（元双葉町町長）
★参加費 1000円

★日時：2017年 **7月29日**（土）
開場/18:00 開演/18:30 ~20:30
★場所：浦和コミュニティセンター
第15集会室 JR線浦和駅前（浦和パルコ上9階）

<呼びかけ人：連絡先>

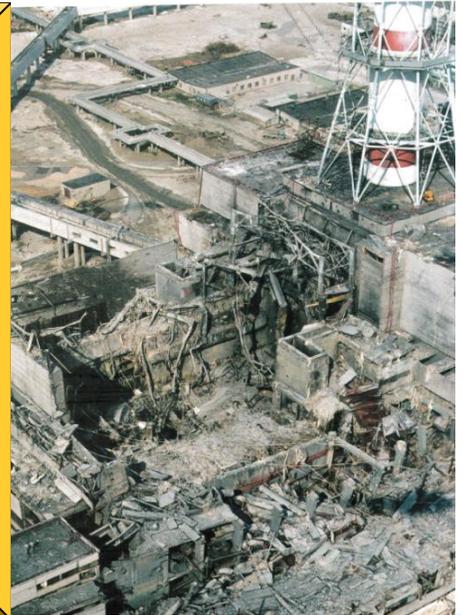
- ・野田千香子 090-7702-4939（原発ワイワイ Cafe・さいたま） cnoda@email.plala.or.jp
- ・雛元 昌弘 080-2381-0288（同上） hinafkin55@yahoo.co.jp
- ・山田ちづ子 090-4600-1027（同上、カフェ南風） chizuko.minakaze.0913@gmail.com
- ・荒畑 勝 090-5779-1507（原発問題を考える埼玉の会） marahata@amber.plala.or.jp
- ・川根 眞也（内部被ばくを考える市民研究会） kawane@radiationexposuresociety.com
- ・小若 順一 048-851-1212（NPO法人 食品と暮らしの安全基金） kowaka@tabemono.info

<集会事務局> 〒338-0003 さいたま市中央区本町東2-14-18 丸田晴江 maruta@tabemono.info

<賛同グループ・賛同人>

原発ABC研究会（和田俊郎：さいたま市）、『原発』国民投票 埼玉賛同人会（向井絵里）、原発止めよう秩父人（吉川かほる）、放射NO!会議 in 鳩山（大滝敬三郎）、さよなら原発4市連絡会（大野良夫）、井戸川克隆（福島被ばく訴訟原告）、神田香織（講師：さいたま市）、末吉美帆子（所沢市：ナロジチ地区訪問）、白田真希（脱原発！埼玉連絡会）、主山しのぶ（森の測定室）、樋口憲二（羽生市）、自然エネルギーを考える川口市民の会、高橋峰子（原発を考える戸田市民の会）

子どもを蝕む体内被ばく
チェルノブイリ
から31年



「1.1 ベクレル/kgの食事で 頭痛—非汚染地域の村」

★ノヴィ・
マルチノヴィチ村一般学校
イーゴリ・ズベンコ校長



100 ベクレル/kg まで安全とする基準の下で
日本の食品は、流通しています。
ウクライナで非汚染地域に強制移住させられた
ノヴィ・マルチノヴィチ村の食事は
1.1 ベクレル/kg なのに、頭痛の人が7割も。
汚染を減らすと、村民と子どもの健康が
どう改善したかを話していただきます。

「日本プロジェクト」
という番組をウクライナの
TV局アルタで制作した。



★オレグ・ヤルムリェンコ・ディレクター